野さち子



山口市 $(1925 \sim 2001)$

もつ子供に育てられながらも、

は」が、今も耳元に聞こえてくる。

大正十四年

(一九二五) に生まれ、進取の気性に富み強靭な意志を

ままならぬ人生を諾いつつ偶然の出合

聖史

直筆色紙

俳文学者

七音定型、

即

「偶然の連続が私をここまで生きさせてくれた、

殊に俳句との関り

上野さち子が呟いた言葉の「ままならぬところから人生は始まる」

なる。 ては、 点ではなく女性の眼でもって探ってみようと、十人をとり上生きる意味を自らに問い続けたからである。そこに着目し、れながらも、優れた俳句作品を残し得たのは、自己意識をご 興性、 句史といっても過言ではない。さち子自身も二十八歳のとき肺切手術 才媛・幽玄・豊潤な母性・凄絶の命などで、近世から現代への女性俳 『女性俳句の世界』各作家のキーワードは清冽な魂・孤愁・優艶・い人である。」と述べている。編著者さち子への最高の祝詞といえよう。 が可能なら、 性俳句の世界』を刊行。この中で下関市豊北町田耕出身の菊舎につ の女流俳句』を刊行。十年後には、近世近代を含めて新たな視点で『女 れながらも、 残ったさち子は井本の示唆を受け、俳句の本質に迫る研究に邁進する 制山口高校教授)井本農一の俳諧の講義を受ける。母校に助手として いを重ねて七十 近世の俳句会形式が、 十九歳の時、山口県立女子専門学校にて国文学を専攻。 諧謔性などが女性にはふさわしくないという古い観念に妨げ のちに 序文の中で大岡信は「田上菊舎は、 女性としてはまず真先に甦らせ、その謦咳に接してみた 『田上菊舎全集 :六年間を生きた。 男女席を同じうせず、 上・下』として刊行。 もし古人を今甦らせること つまり 十人をとり上げ 自己意識を強く持ち、

離れて、 その精神性も見逃すことはできない 菊舎全集出版のあと、 実作の俳風は、 遊ぶ」を実践。 物に即して感動を描き、 雪月花にもっとも定型を生 エッセイ集『四季の風』が届いたのは入院中 師林火の唱える、 し得て典雅。

き方を実体験している。さらに若き日に、深夜公案を持って参禅した、

出産、育児、研究と、ままならぬ女性俳人の

生

を受けながら、結婚、

の元へ逝く。のベッドの上。ドクターに謹呈のサイ ンを書き終えて、 翌々日、

著

作】

『水の上』(平

成4

『田上菊舎全集上・下』(平成12・和泉書院)ほか 評論『女性俳句の世界』(平成元・岩波書店)

> 男性の視 近代 4





ライフワー

- クと

瑠璃光寺にある旬碑



(文・長戸幸江

一夜づつ捨て去るごとく寒を生く娘に教ふ花散り敷くといふことば鶴舞ふやおのおのの天分ちつつ ぐ命張る

平平平昭昭昭昭昭昭昭昭 成成成和和和和和和和 32元63615757524745 5

記本より

わが死せばこの冬机広からむ鶴に逢へたから今日はもう眠ります夫に肩の向き変へられて雪加見る牡丹を焚く火あそびをひとりして 水更へて桔梗のすが花薊八達嶺の風の力 野焼く火のあまり猛きは端ちぎれ もの書くと少し空け置く冬机

上野さち子 年 譜 (提供・長戸幸江)

二九歳歳 二七歳 二 五 歳 一九歳 七歳 む。
山口高等女学校卒業。この頃、臨済宗常栄寺へ参禅。関山口高等女学校卒業。この頃、臨済宗常栄寺へ参禅。関山口県立女子専門学校国文科卒業。この間、俳文学者井本農一から俳諧の影響を受け、母校に助手として残る。山口県立女子専門学校国文科卒業。この間、俳文学者井本農一から俳諧の影響を受け、母校に助手として残る。山口県立女子専門学校が山口女子短期大学に改組。助教授となる。
「大野林火主宰俳誌『濱』に入会。「方の歯科医伊東放春宅の句会に初めて出席し、常連の、のちに夫となる上野燎を知る。5月、林火が瑠璃光寺を訪れた折、初対面。10月、肺結核により、国立療養所山陽荘へ入院。左肺上葉切除。肋骨六本截断。11か月療養。10月、退院。自宅療養。10月、退院。自宅療養。10月、退院。自宅療養。

平成13(二〇〇一)年

七六歳

平成12(二〇〇〇)年

七五歳

昭和26(一九五二)年昭和26(一九五一)年

昭和25(一九五〇)年

昭和19 (一九四四)年

昭和17(一九四二)年

大正14(一九二五)年

ミツノの長女として誕生。本名サチ子。家は家具店を営2月11日、吉敷郡大内村御堀(現・山口市)に父原田米蔵、母 平成 4 (一九九八)年平成 4 (一九九八)年 昭和47(一九七八)年昭和57(一九七二)年 平成元(一九八九)年昭和59(一九八九)年 昭和45(一九七〇)年 昭和40(一九六五)年 昭和37(一九六二)年 三七歳 七 六 九 歳 五 五 四三歳 歳 六 五 四 歳 歳 四五歳 四〇歳

第一句集『はしる紅』上げる。

山口女子大学附属図書館長に就任。6月、山口女子大学に改組。教授となる。山口女子短期大学教授となる。椹水寮舎監。献身を試みたと、跋で井本は称揚する。 刊行。 さち子独自の文学 の自己

3月、定年に一年を残して退官。4月、山口女子大学名3月、定年に一年を残して退官。4月、山口女子大学名の方により、定年に一年を残して退官。4月、山口女子大学名の方により、定年に一年を残して退官。4月、山口女子大学名の方に、 4月、山口女子 大学附属郷土文学資料セン 夕 初代所長 のは男のールを「女

6月、第三句集『水の上』刊行。いうこと。平成10年、アンコール

3月、自註現代俳句シリーズ八期『上野さち子集』大串章主宰『百鳥』創刊同人。 この前後、菊舎新資料発見に東奔西走す 刊行。

『田上菊舎全集上・下』(和泉書院)刊行。

十字病院にて逝去。戒名「文学院秋月妙中31分、慢性肝炎の悪化により呼吸不らり月、エッセイ集『四季の風』刊行。日山口県文化功労賞受賞。 正四位勲三等瑞宝章遺贈 病院にて逝去。 戒名「文学院秋月妙幸大姉」 9月22日、 り呼吸不全となり、 9 月 22 日、 午後 口 赤 1

たる」 葛の花 が、 燎により刊行。 「葛の花齢どこかへ忘れ

除幕式。「正月の雲のも 山口市瑠璃光寺庭園に、 もいろ瑠璃光寺 すばる俳句会一同により句碑建

平成19(二〇〇七)年

《没後》

平成15(二〇〇三)年

昭和29(一九五四)年昭和28(一九五三)年